

6. 事業内容	<p>第1フェーズでは、以下の9つのコンポーネントにおける活動を実施している。</p> <ul style="list-style-type: none"> (イ) マラリア対策 (ロ) 住血吸虫症対策 (ハ) 母子保健活動 (ニ) HIV/AIDSの感染予防活動 (ホ) 安全な水の確保 (ヘ) 公衆衛生改善活動 (ト) 栄養改善活動 (チ) 巡回診療 (リ) 村落内救急搬送体制の導入 <p>以上の内、(ハ)、(ニ)、(ト)については、ジェンダーの平等と女性の地位向上に資する活動である。</p> <p>今次期間では、第1フェーズで実施した上記9つの活動に加え、改良型エコサントイレの建設と「(ヌ) コミュニティセンターの建設 (自己資金)」を行うが、すべての活動は以下の3つのポリシーに従って実施する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ①第1フェーズの活動を基礎としてそれを更に発展させる活動。 ②第1フェーズで確立した定期的な活動を、地域の住民組織が主体となって継続できるよう支援する活動。 ③啓発／教育活動などの年間を通じて恒常的に行う活動。 <p>①については以下の活動がある。「(ヘ) 公衆衛生改善活動」として、改良型エコサントイレの建設(80基)を行うと同時に、エコサン肥料の使用方法に関する啓発／教育活動を実施し、公衆衛生と農業の循環システムを普及させることで持続的なエコサントイレ使用の定着を目指す。「(ト) 栄養改善活動」として、前フェーズで植林したモリンガを活用し、例えば乳幼児の栄養改善など、より具体的な活動を実施する。「(リ) 村落内救急搬送体制の導入」として、前フェーズで自己資金にて導入した救急自転車を用いた救急搬送システムの持続的な運営確立を目指す。「(ホ) 安全な水の確保」として、引き続き浅井戸建設(10基)を行うとともに、前フェーズで設立した井戸管理委員会の自立支援を行う。さらに、前フェーズで設立した各村落委員会の活動拠点として、「(ヌ) コミュニティセンターの建設 (自己資金)」を行う。</p> <p>②の以下の活動については、前フェーズに定期的な実施体制が確立されているため、今後は現地医療者及び各村落保健委員会が主体となって実施できるよう支援を行う。「(ハ) 母子保健活動」として、母親学級、妊産婦健診、母子保健委員会による妊産婦登録。「(ニ) HIV/AIDSの感染予防活動」として、妊産婦健診及び村落内でのVCT。「(チ) 巡回診療」として、毎月の巡回診療の実施と、巡回診療の患者データを用いたフォローアップ(家庭訪問や予防教育の実施など)。なお、巡回診療の事業終了後の継続に関しては、現地医療者への日当、交通手段などのロジスティクスの面について、住民による共益費の捻出や、自転車ビジネス売上金からの支出など、受益者負担の可能性も模索し、住民および現地医療機関と協議していく。</p> <p>③の活動については、「(イ) マラリア対策」「(ロ) 住血吸虫症対策」「(ニ) HIV/AIDS」の感染症対策として、年間を通じて啓発／教育活動を実施すると</p>
---------	--

	<p>ともに、予防手段の実践状況に関するモニタリング及び再指導を実施する。</p> <p>なお、特に変更点がある活動については、別紙参照。</p>
<p>7. これまでの成果、課題・問題点、対応策など</p>	<p>※以下は、第 2 フェーズの申請書提出時点（2013 年 10 月末現在）の状況を記している。</p> <p>①これまでの事業における成果</p> <p>(イ) マラリア対策</p> <p>2,000 人に一斉検査を実施し、陽性と診断された約 1,200 人にマラリア薬を投与。マラリア啓発キャンペーンを実施（参加者約 1,900 名）。蚊帳使用モニタリングを実施し、蚊帳を所持していない家庭に蚊帳を配布予定（2013 年 11 月予定）。その他、(チ) 巡回診療の中でマラリアが疑われる患者に対し簡易検査を実施し、陽性者を治療している。</p> <p>(ロ) 住血吸虫症対策</p> <p>巡回診療の中で住血吸虫症の症状を訴えた患者 54 名に対し治療を実施。県病院とともに対象地域の保健調査員（6 名）に対し尿検査のトレーニングを実施。その後、住血吸虫症啓発キャンペーンを実施し（参加者約 1,200 名）、住血吸虫症一斉検査・治療を実施（参加者 863 名、潜血反応陽性者 347 名（40%））。また、巡回診療内の健康教育でも、住血吸虫症について取り上げている。</p> <p>(ハ) 母子保健活動</p> <p>村落内妊産婦健診や母親学級での啓発活動により、事業対象地住民の、最寄りの病院施設での分娩数が約 40%、妊産婦健診者数が約 50%上昇した。村落内妊産婦検診にはのべ 114 名、母親学級にはのべ 201 名の妊産婦が参加。母子保健委員会によって 93 名の妊婦が登録され、そのうち既に出産した 50 名の内訳は、施設分娩 42 名、施設に向かう道中での分娩 2 名、村での分娩 7 名、死亡者 1 名となっており、事業開始直後に比べて、村落内での分娩の割合は半減している。</p> <p>(ニ) HIV/AIDS の感染予防活動</p> <p>保健調査員（6 名）に対し、HIV/AIDS 感染予防に関する講習会を実施。彼らを講師として、村長（34 名）、村落保健委員会（延べ 133 名）に対し研修を実施。啓発キャンペーンを実施し（参加者約 800 名）、11 月実施予定の VCT への参加を呼びかけた。なお、妊産婦健診の中で、妊産婦に対し VCT を実施しており、これまでに 75 名が参加している。</p> <p>(ホ) 安全な水の確保</p> <p>事業地内に、新規に 9 基の井戸を新設し、1 基の井戸を修繕した。排水が不衛生な状態になっていた既存の井戸に対し、排水枡を建設した（8 基）。新規及び既存の 18 の井戸委員会に対し、井戸管理・修繕講習会を実施した。</p> <p>(ヘ) 公衆衛生改善活動</p> <p>エコサントイレビルダー 20 名の育成。エコサントイレを 43 基建設。</p> <p>(ト) 栄養改善活動</p> <p>栄養価の高いモリンガの苗木 4730 本を配布し、約 2000 本が活着した。モリンガの有用性に対する啓発キャンペーン（約 500 名が参加）、およびモリンガを使用したモリンガ料理講習会を実施（約 430 名が参加）。</p> <p>(チ) 巡回診療</p>

	<p>約 3900 名の患者を診察・治療を実施。巡回診療に参加した現地医療者（延べ 50 名）に医療技術を移転した。取得した疾病データを予防のための啓発／教育活動や、患者のフォローアップを目的とした家庭訪問活動などに活用した。</p> <p>(リ) 村落内救急搬送体制の導入</p> <p>救急自転車を 5 台、貸自転車を 40 台導入した（当会自己資金）。救急自転車委員会を各地区に設立し、運用を開始した。</p> <p>なお、上記の各活動において、母子保健委員会、井戸管理委員会などの住民組織を設立し、各メンバーが自立的・主体的に活動に関われるよう彼等の能力向上を支援した。</p> <p>②これまでの事業を通じての課題・問題点</p> <p>現時点での問題点としては、立ちあげた各委員会の組織が脆弱であることがあげられる。</p> <p>③上記②に対する今後の対応策</p> <p>今後、組織力強化を図り、自立発展、持続可能性をより高めることを目指す。講習会を実施するだけでなく、講習会で学んだことをどのように実施しているのか、きめ細やかなフォローを実施していく。</p>
--	---